



月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第44号

発行：レムナントキリスト教会

価格：100円(送料込みで200円)

【目次】

- ◎ 聖書からのメッセージ：「命に至る門は狭い」 エレミヤ
- ◎ 聖書の中の人々：「エジプトの宰相となったヨセフ」
- ◎ イエスは語られる 「わたしのところに来なさい」
- ◎ キリストを信じた体験談「最善のお友だち」 by S
- ◎ 聖書の教えのエッセンス

<聖書からのメッセージ >

「命に至る門は狭い」 by エレミヤ

マタイ 7:13 狭い門からはいりなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこからは行って行く者が多いのです。

7:14 いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。

7:15 にせ預言者たちに気をつけなさい。彼らは羊のなりをしてやって来るが、うちは貪欲な狼です。

本日は「命に至る門は狭い」という題でメッセージしたいと思います。上記テキストに沿って見ていきましょう。

”狭い門からはいりなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこからは行って行く者が多いのです。”

ここでは、狭い門すなわち、命に至る門から入ることが奨励されています。そして、滅びに至る門は大きいこと、その道も広いこと、そしてそこから入って行くものが多いことが語られています。これはどういう意味合いなのでしょう？考えてみましょう。ここで書かれている命とか滅びとかいうことばについて考えてみましょう。聖書は人の死後の世界に関して、人は死んだら無になるとか、千の風になるとか、星になる、などとは語りません。逆に以下の様に人は死後誰でも必ず裁きの座、裁判の座に着くことが語られています。

ヘブル9:27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている

ここでは、どんな人にも定まった2つのことがあることが書かれています。その一つはどんな人でも必ず死を経験することです。これは、誰でも知っています。もう一つあまり知られていないことがあり、それは死後誰でも彼でも必ず、その自分の人生で行なったあらゆる行いに関して裁き、すなわち、裁判を受けるということです。

「命に至る門は狭い」 by エレミヤ

その裁判の結果、ある人は無罪放免となり何の罰もおとがめも受けません。そして神により、永遠の命を受けるようになります。またある人々は自分の犯した全ての罪への罰として、滅びやら地獄の罰を受けるようになります。このように人の死後は命か、滅びか2者択一のように、明確な区分がおきます。これらの事実をベースにして上記聖句には、命や滅びについて書かれているのです。

7:14 いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。

ですから、ここで書かれているいのちに至る門とは、私たちが死後永遠の命に入るための門、命に入るための門について書かれているのです。そしてその門は小さく、その道は狭く、その結果それを見いだす者はまれで、あることが語られています。

＜にせ預言者は滅びの門を語る＞

7:15 にせ預言者たちに気をつけなさい。彼らは羊のなりをしてやって来るが、うちは貪欲な狼です。

さて、この滅びの広い門に関係するかのようにはここでは、にせ預言者たちについて語られています。彼らは羊のなりをしているが、そのうちは貪欲な狼であることが語られています。羊は無害ですが、狼は羊を襲って命を奪います。ですから、このにせ預言者やにせ教師の偽りのことばを信じる人々は滅びにいたり、命を失うようになることがわかります。

具体的に、にせ預言者のことばとは何でしょう？たとえば進化論のことばでしょうか。進化論は人は物質に過ぎず、また、人間ができたのも、単なる偶然に過ぎない、と語ります。神など存在しないと語るのです。しかし、果たして人間の様な複雑な生物が偶然にできるのでしょうか？人間の体は60兆もの細胞からできています。そしてそのそれぞ

れの細胞に含まれるDNAには60億ビットもの情報が含まれているとのことです。このような複雑な人間の体が偶然にできた、と主張することは、不自然で愚かな話です。そして神や聖書を否定する滅びの門です。このようににせ預言者のことばを真に受け、神を拒否する歩みをするなら、私たちは、死後のさばきの時には神から咎めや罰を宣告されるようになるでしょう。まさに、「滅びに至る門は大きく、その道は広い」のです。

＜命に至る狭い門はどれか＞

それではこの件、人はどのようにして存在するようになったのか、という件に関して、命に至る狭い門は何でしょうか？人や動物の創造に関して聖書はこう語ります。

ロマ1:18 というのは、不義をもって真理をばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対して、神の怒りが天から啓示されているからです。

1:19 なぜなら、神について知りうることは、彼らに明らかであるからです。それは神が明らかにされたのです。

1:20 神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。

1:21 というのは、彼らは、神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからです。

ここには、神は確かに目に見えない存在なのですが、しかし、そうだからといって、神を認めない、その存在を受け入れない、という人には弁解の余地がなく、神の裁きの座で彼はさばきを免れることができないことが語られています。

「命に至る門は狭い」 by エレミヤ

神は確かに見えない方ですが、しかし、聖書は、「神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められる」ことを語ります。

どういう意味合いでしょうか？私にはこう理解できます。たとえば、東大寺の様な大きな建物が存在しているという事実はこの建物を建築した人が存在したことを「証明」します。もちろん、東大寺は古い建物なのでそれを建築した人は今はいないのですが、しかし、建物が存在していること自体が、その建築した人が「存在」したことを証明するのです。

また、同じくモナリザの様な絵が存在することは、その絵を描いた画家が「存在」したことを証明します。モナリザを描いた画家はもうこの世に存在しませんが、このような優れた絵は偶然にできることはないのです。

同じく人間に関しても、その存在自体が、人間をデザインし、実際に創造した神という方の「存在」を証明しているのです。また、モナリザは優れた絵ですがしかし、しょせん絵に過ぎないという言い方もできます。どれだけ優れた絵でも絵の女性が歩き出すわけでも、話しだすわけでもないのです。しかし、実際に神が創造した女性は歩きもするし、話もします。このような人間、女性が偶然にできた、ということはありません。確かに被造物、神の作品である人間の存在は、その創造者である神の存在を証明しています。

そして、これが、上記聖書のことば、「神の…神の永遠の力と神性は、..被造物によって知られ、はっきりと認められる」ということばの意味合いです。

そして、このような真理こそが私たちが命に至るための狭い門、狭い道なのです。進化論などの広い道を通るならその先に待っているのは神の怒りをかう道であり、裁きの座で永遠の刑罰の宣告、滅びの宣告を受ける道な

のです。このことを知しましょう。

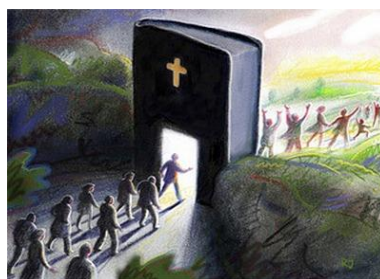
<私たちが有罪とならないには>

先ほど書きましたように、聖書によれば、死後の裁きの座では私たちがその人生で犯した全ての罪に関して尋問があり、申し開きをするようになります。また、罪の弁済として、私たちは実刑を受け、死後、罰として火の池に投げ込まれるようになります。

しかし、神はそのような実刑を受けざるを得ない私たちを哀れんでくださり、そのため救いの道を用意して下さったことを聖書は語ります。以下の様に書かれています。

ヨハネ3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

ここに書いてあることばの意味合いは、神は我々が自分の犯した罪の罰を受けないために救済処置を備えて下さったということです。具体的には神のそのひとり子であるイエスキリストを世に与え、十字架でその命を犠牲にしたことです。その死は我々の罪をなう死であり、身代わりであることも書かれています。そしてその身代わりの死により、私たちが当然払うべき罪、罰、地獄の罰から我々は免れるということです。これこそ、命に至る狭い門、狭い道なのです。このことを真実とし、キリストに頼るものは命を得ます。このことを知しましょう。



命に至る門は狭い

聖書の中の人々「エジプトの宰相となったヨセフ」

ヨセフは、創世記に37章～50章に登場し、信仰の祖とされているアブラハムのひ孫で一族はカナンの地に住んでいました。父ヤコブ(イスラエル)には12人の息子がおり、ヨセフは11男になります。ヨセフの母はラケルでヤコブの最も愛した妻でした。ヨセフには実弟のベニヤミンのほか、ルベン、シメオン、レビ、ユダ、イッサカル、ゼブルン、ダン、ナフタリ、ガド、アシェルという母の異なる10人の兄達がいました。

ヤコブは年寄り子である息子ヨセフを誰よりも愛し、異母兄たちはヨセフを妬み憎んでいました。ある時、ヨセフは2つの不思議な夢の事を話しますが、これはヨセフに父や兄弟たちがひれ伏し、従う夢でした。異母兄たちはさらに彼を憎むようになります。父ヤコブがヨセフを異母兄達のところへ使いに行かせたとき、彼らはヨセフを穴に落とし、通りがかったエジプトに向かう商隊に売りとばします。そして彼らは父ヤコブにヨセフは野獣に襲われ死んだと偽りをいいます。

売られたヨセフはエジプトの王の侍従長の奴隷として仕え、信頼され全財産を任せられるようになります。しかし侍従長の妻に言い寄られて拒んだ為に、濡れ衣を着せられ監獄に入ります。囚人になったヨセフでしたが、監獄の長に信頼され監獄の管理人になります。その後、エジプトの王の献酌官と調理官が罪を犯し監獄に入れられた際、ヨセフは2人が見た夢を解き明かし、全くその通りになります。その2年後、ヨセフはエジプトの王の夢の解き明かしをし、監獄の囚人からエジプトの宰相の立場になります。エジプトの王は「**神の霊の宿っているこのような人を、ほかに見つけることができようか。(創世記41:38)。「わたしはあなたにエジプト全土を支配させよう。(創世記41:41)」**といいました。こうしてヨセフはエジプトで最も力のある存在になりました。「**主が彼とともにおられ、彼が何をしても、主が彼を成功させてくださったからである。(創世記39:23)**」というように、神様がヨセフを守っていたのです。

ヨセフが解き明かした王の夢の内容は、7

イエスは語られる 「わたしのところに来なさい」

年間の大豊作の後に7年間の大飢饉が起こるというものでした。神様がヨセフに与えた知恵により、大飢饉にもかかわらずエジプトには多くの食料がありました。飢饉に苦しむ人々はエジプトに食料を求めるようになり、父ヤコブは息子たちにエジプトに食料を買いに行くように命じます。ただ、ヨセフの弟ベニヤミンだけは決して行かせませんでした。10人のヨセフの異母兄たちはエジプトに食料を買いに行き、宰相となったヨセフに面会しひれ伏します。かつてヨセフが見た夢が現実になりました。ヨセフは異母兄たちであることに気が付きますが、彼らは気が付きません。ヨセフは異母兄たちにスパイの嫌疑をかけ、異母兄のシメオンを人質として監禁し、弟のベニヤミンを連れてくるように命令します。帰った9人は父ヤコブに末弟ベニヤミンをエジプトに連れていくことを願いますが、ヤコブは許しません。しかしついに食糧が尽き、ベニヤミンもエジプトに向かいます。彼らと面会したヨセフは、異母兄たちを試すためわざと盗みの嫌疑をベニヤミンに掛けます。異母兄たちが懸命にベニヤミンを守ろうとし、自分たちが犯した悪について深く悔いている姿を見たヨセフは、ついに自分のことを明かします。驚く兄たちにヨセフは「**今、私をここに売ったことで心を痛めたり、怒ったりしてはなりません。神はいのちを救うために、あなたがたより先に、私を遣わしてくださいなのです。(創世記45:5)**」と言い彼らを許します。異母兄たちのヨセフに対する悪行を、神様は飢饉から一族を救うために用いられたのです。大飢饉があと5年続くため、カナンからヤコブ(イスラエル)たち一族全員はエジプトに移住します。そして年老いた父ヤコブはヨセフの2人の息子マナセとエフライムに会います。エジプトの王は宰相ヨセフの親族たちを喜んで向かえ入れ、彼らは肥沃な土地ゴシェンに住むようになりました。こうしてエジプトの地でイスラエルの子孫は増え広がっていくのです。

イエス・キリストは今も私たちに、語り掛けておられます。「イエスキリストは昨日も今日もいつまでも同じです。」(ヘブル13；8)とあるように、イエスは過去の人ではなく今も存在しているのです。そして、聖書の言葉を通して、今も私たちに語り掛けておられます。主イエスは何とされているのでしょうか。

マタイ11：28

すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。

現代は重荷を負い疲れ果てた人が多い時代です。そんな中、人々は前向き思考で弱音を吐かず自力で乗り越えることが大事だと頑張ります。よく報道される自分の力で困難を乗り越えたストーリーは人々を感動させます。しかし、自分の限界を超えた問題も人生の中では起こってきます。例えば、突発的な事故、自然災害、治療できない病、そして誰もが避けられない死の問題・・・これらはいくら努力しても、文明や科学が発達しても越えられません。人には立ち向かえないことが多くあります。心身ともに疲れはて、絶望的な状況の時、どうすればいいのでしょうか。

主イエスが語られたことに耳を傾けてみましょう。イエスは、「**疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしが休ませてあげます。**」とされています。イエスは疲れ果てた人に呼びかけています。ここが避難所です。ここにきて重荷を下ろしましょう。わたしがあなたの面倒を見ます。安心できるわたしの所においでなさい。イエスは、重荷を負う人を助け休ませてくださる、と約束しておられるのです。

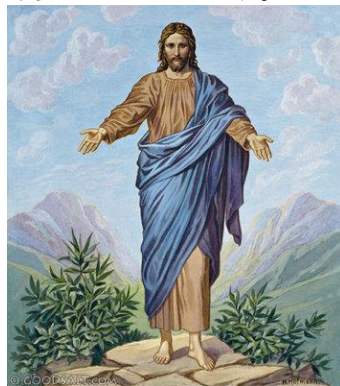
自分の限界を感じた時、疲れはてた人は、イエスのところに行き、自分の負いきれない重荷をイエスに差し出すだけでよいのです。果たしてそんなことでいいのだろうか？任せて大丈夫なのだろうか？という疑問が起きるかもしれません。しかし聖書は「人にはできないことが、神にはできるのです。(ルカ18：27)」「**神にとって不可能なことは一つもありません。(ルカ1：37)**」と言います。全能の神様には不可能はありません。

また、ヘブル2：18で「**主は、ご自身が**

試みを受けて苦しまれたので、試みられている者たちを助けることができになるのです。」とあります。イエスは神の御子であるのに、我々の為、人と同じ姿となりました。そして、私達が人生の中で出会ういろいろな苦しみ、悲しみを同じように体験されました。人からあざけられ、裏切られ、妬みにより陥れられ、最後には無実であるのに罪人として最も恐ろしい十字架刑にかかけられました。そのような方なので苦しむ人に深く同情し、救うことができになるのです。イエスはこの世の誰よりも信頼できる方です。主イエスに信頼した人は、実際に自分の問題を解決に導いてくださる体験をするでしょう。人は自分の苦しみの中で神様と出会い助けを体験することができるのです。

そしてイエスに頼り問題をすべてお任せすることは、非常に賢い選択なのです。自力に頼ることの方が実は危険で愚かな選択といえます。「**心を尽くして主に拠り頼め。自分の悟りに頼るな。あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。(箴言3；5～6)**」とあります。

私たちがすべきことは、ただ、御子イエスのところに行き、ひどい現状をイエスに任せ、重荷を置き、イエスに頼り問題をお渡してしまうことです。幼い子供が、どうしていいかわからなくなった時、母親のところへ駆け寄るように、イエスの所に行けば良いのです。神であられる方イエスにすべてお任せすることで心に安心、平安が与えられます。



イエスに重荷を下ろす

キリストを信じた体験談『最善のお友だち』 by S

随分前のことですが、信徒の方が礼拝の中で証をしていました。ハッキリは覚えていませんがその時に、「僕にはこれといった友だちがいません。以前はそのことで少し悩んだり、考えたりしたことがありました。でも、ある時、イエスさまが僕の最善のお友だちだということに気付きました。それからはそういうことをほとんど考えなくなりしました。そしてそのことを喜びました。神さまに感謝です。」とおっしゃっていました。

また、その教会の牧師さんが別の機会にこのよう言われていたそうです。「私はね、イエスさまだけを信じています。家族や親族、信徒の人たちもいますが、でも、信用できるのはイエスさまだけです」と。私はその場に居合わせたわけではなかったのですが、その話を聞いていた人から小耳に聞きました。私の目から見ると正直、その牧師さんは、とても恵まれているなあと思うことばかりでした。その時に伴侶は亡くなっていましたが、でも、娘さんご家族二組と一緒に生活をしていて、牧師さんの実のお兄さんや弟さんや妹さんやご親族の方々が皆クリスチャンで、信徒さんの数も多くて申し分無いなあ、周囲にそれだけクリスチャンがいたら、何かと頼れる人もいていいなあ、なんて思ったことが何度もあったのですが、でも、「信用できるのはイエスさまだけ」ということばに何か語りかけを感じました。

誰だって、お友だちはいないよりは、いたほうがいいと思いますよねえ。でも、もしもですよ、今、誰もお友だちがいない～、なんていう状況であっても、ひとりぼっちではないので大丈夫！イエスさまがあなたのお友だちになってくれますよ～、ということ、神さまが信徒さんや牧師さん

を通して語っておられるのでは？なんて思いました。私自身、時として孤独を感じる事が無きにしもあらずで、しかしその時にお二人のお話を思い出しては「もし、ひとりになっても大丈夫。いやいや、ひとりになるなんてことはまず、ないのだ。イエスさまがおられるのだから」なんていう風に明るく考えるようにしています。そうすると、心の思いがイエスさまにあっての喜びや平安で沸いてくるのです。不思議ですよねえ。でも、それは非常に感謝だなあと思っております。

なので、もし何かご事情があって、ちょっと淋しいなあ、なんて思うことがありましたら、ぜひイエスさまをお友だちとしていきましょう。また、イエスさまをお友だちにするのなら、決して裏切られることはない！という素晴らしいメリットがありますので、よろしければ生涯にわたってイエスさまを最善の友としていきましょう！さいごに聖書のことばを読んで証を終わりにします。

18:24 世には友らしい見せかけの友がある、

しかし兄弟よりもたのもしい友もある。

(旧約聖書〔口語訳〕：箴言18章24節)



キリストは最善の友

私たちは天国へ入れるでしょうか？

私たちは 死後天国へ入れるでしょうか？ 考えて見ましょう。

<全ての人の人生に2つの定まったことがあります>

それは、どのような人も必ず死ぬこと、さらに死後誰でも必ず神の前で裁き(裁判)の座につくことです。裁判の結果、無罪の人は永遠の命を受け、有罪の人は火の池に投げ込まれます。以下の様に書かれています。

ヘブル 9:27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばき(裁判)を受けることが定まっている

<神の戒めに従って裁かれる>

死後の裁きの基準は聖書に書かれている十戒です。すなわち、我々が以下の戒めを守っているかどうかで死後の行き先が決まります。具体的には神を拝する、偶像を作らない、神の名をむなしく唱えない、安息日を守る、父母を敬う、殺さない、偽証しない、盗まない、姦淫しない、むさぼらないとの10の戒めです。これらの戒めを全て完璧に守り、一度も破ったことのない人は無罪として、火の池の罰を受けることはありません。

<私たちは天国へ入れるのか？>

とはいっても、このような神の戒めを全て守ることは私たちには難しいことです。偽証しないすなわち一度も嘘をつかない人は珍しいでしょう。盗むなどいっても小さなことを含めるなら一度も盗んだことのない人も珍しいでしょう。したがって、残念ながら、私たちは神の前に出たとき、有罪の宣告を下される可能性が高いのです。

聖書に関する有名人のこぼし話：フランシス・ベーコン

<罪のない羊が私たちの罪の代わりに死ぬ>

旧約の時代の人々も私たちと同じように、神の戒めを全ては守りきれない人々でした。彼らが犯した罪が許されるために、神はその罪の代価を支払うべく、羊や牛を犠牲としてささげることが命じています。捧げられた罪のない羊や牛が血を流し、命を失って人々の罪の犠牲となり、代価となったのです。その時、罪を犯した人々の罪は許され、彼らは永遠の命を受けました。

<キリストは神の子羊>

イエスキリストは十字架で死にました。そしてその死は聖書によれば、神の子羊として我々の罪の犠牲、代価を払った身代わりの死であることが書かれています。

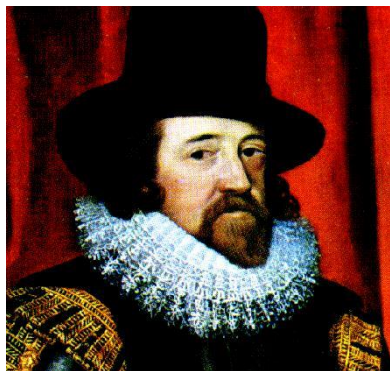
ロマ4:25 主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。

このキリストを受け入れ、信じる人は死後のさばきに会うことがなく、永遠の命を持つようになります。私たちがもし、神の戒めを守りきれず、罪があるとしてもキリストがその死によって代価を払ってくださったのです。それで、たとえ死後の裁判の座に出ても、無罪、借金を返済したものとして、有罪の宣告を受けないのです。ぜひこのキリストを知ってください。



子羊であるキリストの十字架の死

(イギリスの政治家、著述家、1597年)



ベーコンは聖書を神のことばと呼んでいた。

<お知らせコーナー>

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00 見本

場所:東京都、京王線府中駅 10分 ルミエール(市民会館)

府中市府中町2-24 (tel:042-361-4111)

1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。

教会への連絡:tel:042-364-2327, mail:truth216@nifty.com

★教会のHPもあります。

毎週の礼拝や聖書のメッセージの動画もアップされています。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。

尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリ

ーブ&ミルトス <http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>